



# Economic Monitor

## 米国の労働力率上昇の背景

4月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が2ヶ月連続で20万人超の大幅増加を記録した一方で、失業率は9.7%から9.9%へ上昇し、雇用者数と失業率の変化の方向が逆となった。統計上、4月の失業率上昇は、米国民の労働市場への復帰によるものと説明できる。つまり、米国民の労働市場への復帰により、労働力人口（働く意志のある人）が増加したが、労働市場へ復帰した人がすぐに皆、就職できるわけではないため、職を得ることができない失業者も増加し、失業率は上昇したということである。

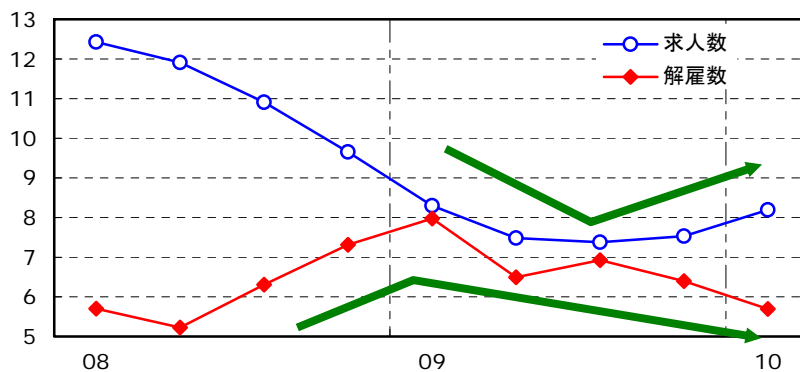
では、なぜ労働市場への復帰が、このタイミングで進んだのか、その理由を考える上で有用な統計であるJOLTS（Job Openings and Labor Turnover Survey）の3月分が5月11日に公表された。JOLTSによると解雇数（Layoffs and Discharge）が昨年10～12月期前期比▲7.6%→今年1～3月期▲10.9%と2四半期連続で大幅に減少する一方、求人数は10～12月期2.2%→1～3月期8.8%と2四半期連続で増加している。こうした就職環境の改善を、米国民が認識し、労働市場へ復帰したのだと推測できるだろう。

なお、5月の非農業部門雇用者数は、4月を上回る大幅増加になる可能性が高い。10年に一度の国勢調査による雇用増がピークとなるためである。前回国勢調査が行われた10年前の2000年5月には、国勢調査要因だけで35万人も雇用者数は増加した。国勢調査要因が前回と同じ35万人程度、国勢調査要因以外の雇用増加が4月と同じ20万人程度と仮定すると、今年5月の雇用増は55万人に達する。

### なぜ失業率は上昇したのか？

$\frac{\text{失業者数3月:1,501万人}}{\text{労働力人口3月:1億5,391万人}} + \frac{\text{4月の増分:25万人}}{\text{4月の増分:81万人}} = \frac{1,526\text{万人}}{1億5,472\text{万人}}$
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>3月の失業率9.7%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>4月の失業率9.9%</p> </div> </div>

### 求人数と解雇数の推移(百万人)



(出所)U.S.DOL

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠商事調査情報部が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。